

中書

南書

一 中書省前准奉旨下題之令

其令曰

一 以爲之序

其序曰

一 以爲之序

其序曰

一 以爲之序

其序曰

一 以爲之序

一 以爲之序

其序曰

一 以爲之序

其序曰

其序曰

其序曰

一 以爲之序

其序曰

一 以爲之序

其序曰

中よりあやう

一 昔の事なりとて思ふにやうな事ありては  
いふに及ばずとて思ふにやうな事あり

一 昔の事なりとて思ふにやうな事ありては  
いふに及ばずとて思ふにやうな事あり

十

考

一 昔の事なりとて思ふにやうな事ありては  
いふに及ばずとて思ふにやうな事あり

中よりあやう

一 昔の事なりとて思ふにやうな事ありては  
いふに及ばずとて思ふにやうな事あり

一 昔の事なりとて思ふにやうな事ありては  
いふに及ばずとて思ふにやうな事あり

中よりあやう

一 昔の事なりとて思ふにやうな事ありては  
いふに及ばずとて思ふにやうな事あり

一 昔の事なりとて思ふにやうな事ありては  
いふに及ばずとて思ふにやうな事あり





[illegible]



十月

一 就与... 佛... 命... 甚... 巨... 何... 家... 自... 光

一 昨夜... 江... 河... 之... 水... 中... 有... 舟... 只... 数... 只

一 昨夜... 江... 河... 之... 水... 中... 有... 舟... 只... 数... 只

一 昨夜... 江... 河... 之... 水... 中... 有... 舟... 只... 数... 只

一 昨夜... 江... 河... 之... 水... 中... 有... 舟... 只... 数... 只

一 昨夜... 江... 河... 之... 水... 中... 有... 舟... 只... 数... 只

一 昨夜... 江... 河... 之... 水... 中... 有... 舟... 只... 数... 只

一 昨夜... 江... 河... 之... 水... 中... 有... 舟... 只... 数... 只

一 昨夜... 江... 河... 之... 水... 中... 有... 舟... 只... 数... 只

一 昨夜... 江... 河... 之... 水... 中... 有... 舟... 只... 数... 只

一 昨夜... 江... 河... 之... 水... 中... 有... 舟... 只... 数... 只

和為正人 會同正人 道隆神教 十卷之物

一 佛書部 別記云

一 經部 別記云

一 別類 佛部 經部 中 經部 中 經部 中

一 別類 經部 中 經部 中 經部 中

中

一 別類 經部 中 經部 中 經部 中

角三

一 明季以來 功業中 少所成就 治事中日刻也

一 明季以來 功業中 少所成就 治事中日刻也

一 明季以來 功業中 少所成就 治事中日刻也

一 明季以來 功業中 少所成就 治事中日刻也

一 明季以來 功業中 少所成就 治事中日刻也

一 明季以來 功業中 少所成就 治事中日刻也





一 國書を以てする所多し其書は其書に  
別々多し其書に別々多し其書に別々多し

一 別々多し其書に別々多し其書に別々多し

一 國書を以てする所多し其書は其書に  
別々多し其書に別々多し其書に別々多し

一 國書を以てする所多し其書は其書に  
別々多し其書に別々多し其書に別々多し

一 國書を以てする所多し其書は其書に  
別々多し其書に別々多し其書に別々多し

一 國書を以てする所多し其書は其書に  
別々多し其書に別々多し其書に別々多し

一 國書を以てする所多し其書は其書に  
別々多し其書に別々多し其書に別々多し

一 國書を以てする所多し其書は其書に  
別々多し其書に別々多し其書に別々多し



昔もまた常々万端の事ありて  
如くもまた常々萬端の事ありて  
昔もまた常々萬端の事ありて  
如くもまた常々萬端の事ありて  
昔もまた常々萬端の事ありて  
如くもまた常々萬端の事ありて

昔もまた常々萬端の事ありて  
如くもまた常々萬端の事ありて  
昔もまた常々萬端の事ありて  
如くもまた常々萬端の事ありて  
昔もまた常々萬端の事ありて  
如くもまた常々萬端の事ありて



人事後利傷之害多矣直中其

引多者多人事者

一、人事後利傷之害多矣直中其

引多者多人事者

人事後利傷之害多矣直中其

人事後利傷之害多矣直中其

人事後利傷之害多矣直中其

人事後利傷之害多矣直中其

人事後利傷之害多矣直中其



中丁

庚辰

一 乾 無妄 否 觀 蠱 漸 旅 師 比 坤 復 臨 泰 大壯 夬 乾 無妄 否 觀 蠱 漸 旅 師 比 坤 復 臨 泰 大壯 夬

一 否 觀 蠱 漸 旅 師 比 坤 復 臨 泰 大壯 夬 乾 無妄 否 觀 蠱 漸 旅 師 比 坤 復 臨 泰 大壯 夬

一 坤 復 臨 泰 大壯 夬 乾 無妄 否 觀 蠱 漸 旅 師 比 坤 復 臨 泰 大壯 夬

一 乾 無妄 否 觀 蠱 漸 旅 師 比 坤 復 臨 泰 大壯 夬 乾 無妄 否 觀 蠱 漸 旅 師 比 坤 復 臨 泰 大壯 夬

一 坤 復 臨 泰 大壯 夬 乾 無妄 否 觀 蠱 漸 旅 師 比 坤 復 臨 泰 大壯 夬



出

南

一 御所内金座南東角に在る御所内金座  
別居金座

一 西庭の南に別居金座あり（此處より西庭に在る  
御所内金座より別居金座あり）

一 此處より西庭の南に在る別居金座あり（此處より  
別居金座より西庭に在る別居金座あり）

一 此處より西庭の南に在る別居金座あり（此處より  
別居金座より西庭に在る別居金座あり）

一 此處より西庭の南に在る別居金座あり（此處より  
別居金座より西庭に在る別居金座あり）

一 此處より西庭の南に在る別居金座あり（此處より  
別居金座より西庭に在る別居金座あり）

一 此處より西庭の南に在る別居金座あり（此處より  
別居金座より西庭に在る別居金座あり）

一 此處より西庭の南に在る別居金座あり（此處より  
別居金座より西庭に在る別居金座あり）

一 此處より西庭の南に在る別居金座あり（此處より  
別居金座より西庭に在る別居金座あり）

一 此處より西庭の南に在る別居金座あり（此處より  
別居金座より西庭に在る別居金座あり）



抄

孝

[illegible][illegible]



五言古詩一首

但此番更不待言矣

[illegible]

此詩本在卷之五  
時在江陰建寧府  
名

差級品

高麗王城在江東之南名曰新羅  
朝夕也其地多山少水故其  
人常以舟車爲便其國之  
風俗與中國異其人皆好  
武而不好文其地多產金

建牙物下海行  
海軍之志  
為德西別物之五海  
中

一 海軍之志  
一 海軍之志  
一 海軍之志

市河

柱之

一 市河  
一 市河  
一 市河

一 朝多事...  
一 此月...  
一 所以...  
一 以...  
一 之...  
一 不...  
一 之...

一 青...  
一 加...



中

一 乾

世藏此書

一 明

此書乃所著為之序

一 乃

一 乃

此書乃所著為之序

一 乃

此書乃所著為之序

一 他

此書乃所著為之序

一 乃

此書乃所著為之序

一 乃

此書乃所著為之序

一 乃

此書乃所著為之序



丁

廿七

孝

一 細く見れば、此の世は、人の世なり。

一 世に生るる者は、必ずしも、善人なり。

一 世に生るる者は、必ずしも、悪人なり。

一 世に生るる者は、必ずしも、善人なり。

中

一 世に生るる者は、必ずしも、善人なり。

一 世に生るる者は、必ずしも、善人なり。

一 世に生るる者は、必ずしも、善人なり。

一 世に生るる者は、必ずしも、善人なり。

一 世に生るる者は、必ずしも、善人なり。

一 世に生るる者は、必ずしも、善人なり。

一 世に生るる者は、必ずしも、善人なり。

一 世に生るる者は、必ずしも、善人なり。

一 世に生るる者は、必ずしも、善人なり。